

いじめを生まないための 一次予防の意義と効果的な実践について

スクールカウンセラー
元福岡県警察少年補導職員
公認心理師 安永 智美

一次予防の意義

予防教育は、命を守る**先制活動**

- 知識はお守り・薬物の害、SNSの危険性等
- 心を揺さぶり被害、加害をあぶりだす
- 言葉にできなかったSOSが出せる機会
- 規範意識⇒**自己肯定感**を育む心理教育

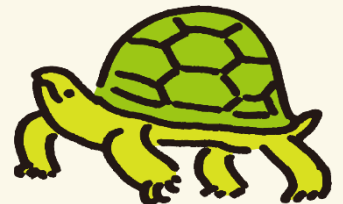
より効果的な実践のために必要なこと

予防教育の視点を変える

当事者の声(メッセージ)を伝える

予防教育の必要最適な対象

被害者家族から託された願い



命を奪ういじめの現状を知る

事例 いじめ自死・中学3年男子

「お母さんは長生きしてね」

**ラインへの書き込み・ブロック
「死ねばいいのに」「きもい」
わいせつ画像の拡散・晒す**

いじめは命・未来を奪う犯罪です

犯罪として問われる・・・

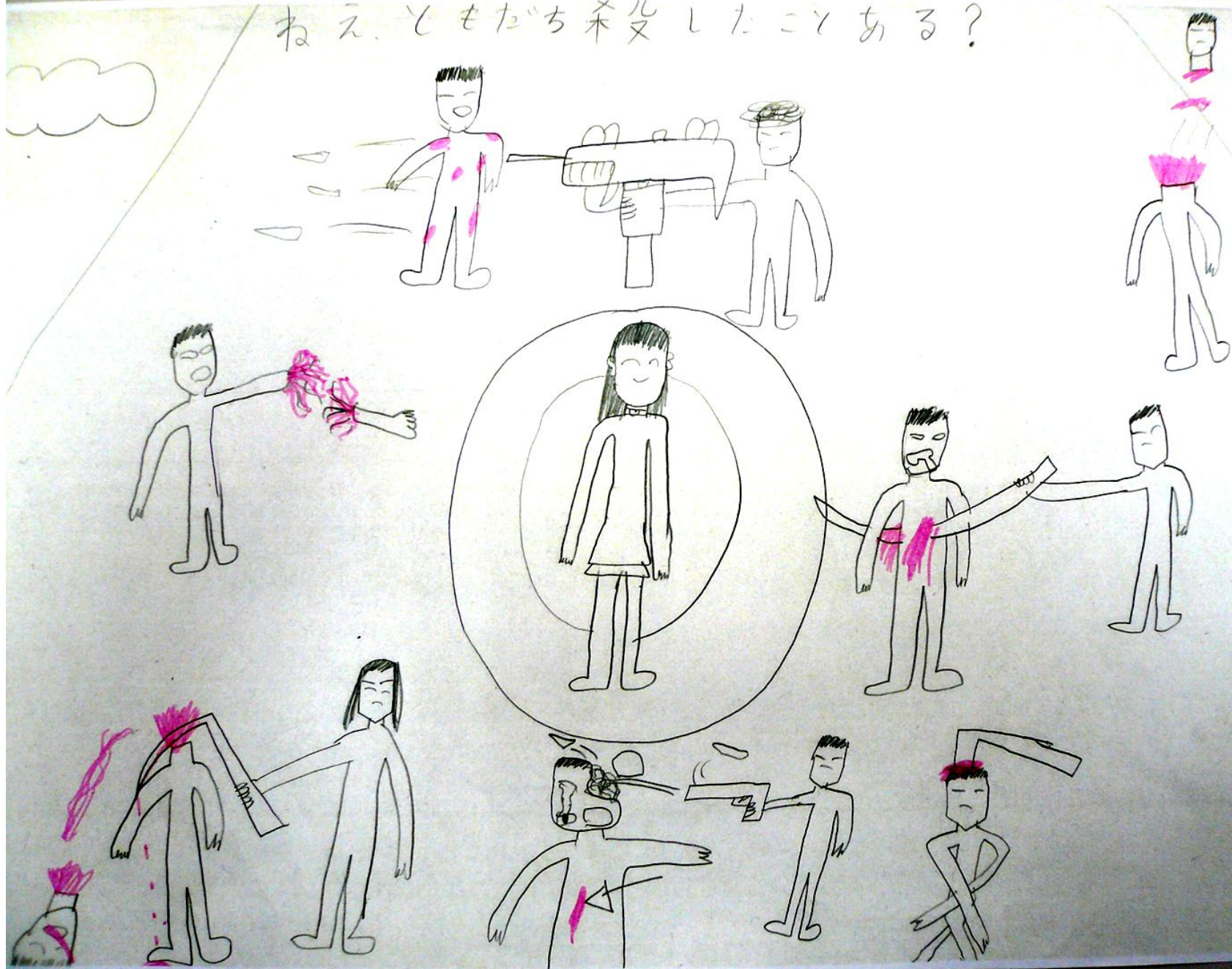
窃盗、恐喝、暴行、傷害、名誉棄損、侮辱罪

性、自殺教唆、こころの殺心

何より、被害者も加害者も

生涯背負う苦しみ、悲しみ

ねえ、ともだちを殺したことがある？



☆ 予防教育の必要最適な対象とは
～子ども以上に大人への啓発が必要～
※特に乳幼児期の子どもの保護者

○ すべての保護者に望みたいこと
我が子を加害者にしないという視点
加害防止=被害防止

○ 守り方を間違わない

- ・ 隠す、矮小化、なかったことにする
- ・ 親が認めて謝る勇気を示す

○ 相談は解決への一歩
家庭だけで抱え込まない⇒支援機関と繋がる

個ではなく多機関連携

で救える

命・未来がある。

学校

連携

他職種

専門機関(凝集性の高い組織)の盲点

※ グーループシンク(集団浅慮)を防ぐ

- ・ 自分たちは正しい、大丈夫だという思い込み
- ・ 外部からの注意や警告に耳を傾けない
- ・ 自分たちに都合の悪い情報を遮断・無視する



重層的な取り組み必要

さまざまな立場からの視点、思考、判断が必要

他職種の違いを活かし、お互いの強みを発揮することで

最強の相棒!!

多機関連携に求められるもの

○ 情報共有から行動連携へ

情報共有はゴールではなく、**連携の一步**

※ 情報共有だけでは救えなかった命

○ 連携の潤滑油は

相互理解と感謝、リスペクト

※ お互いの得意(強み)と苦手を理解する

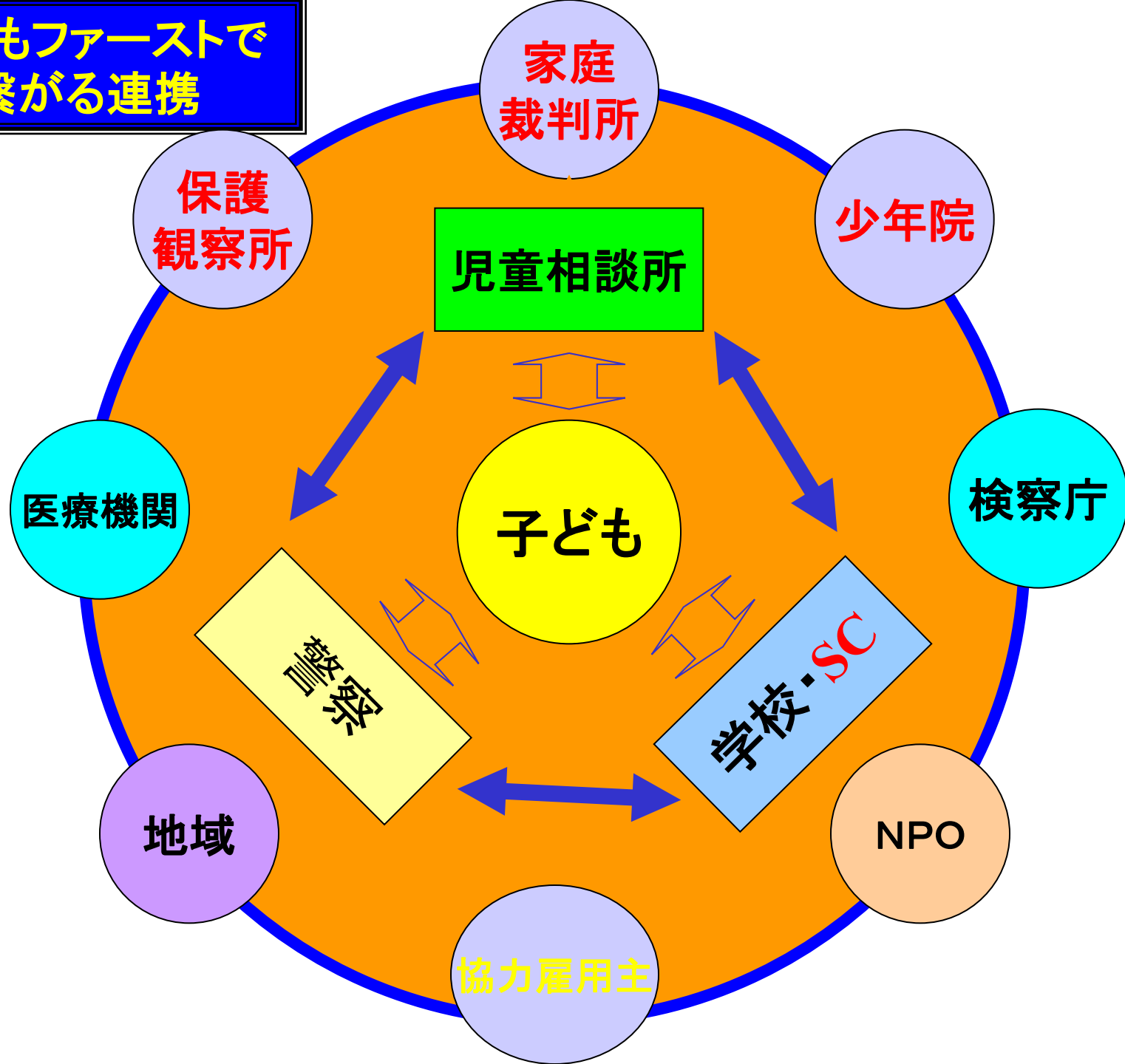
多機関連携に求められるもの

関係機関の「隙間」を埋めるためには

自分の立場から一步踏み込む「勇気」と
立ち直りを見届けるまで土俵から降りない「覚悟」

行動力のガソリンは・・・**熱意**「この子のために」

子どもファーストで
繋がる連携



結びに

「なぜ、僕の苦しみに気づかないのか」

私たちの目の前に、言葉にならない心の痛みを一人で抱え、気づいてくれる大人を待っている子どもはいないだろうか。他者を傷つけることでしか自分の空虚な心の穴埋めができない子どもはいないだろうか

いじめから子どもを守り、救うためにみなさまの支援の手が必要です。

今日ここから、いじめ問題に本気で取り組む連携・繋がりが全国に広がっていく機会になれば幸甚です！

